

3

東江地区

1 計画の重点課題

- ① バリアフリーマップの作成
- ② 高齢者の移動手段の確保

3
東江地区

2 東江地区の人口

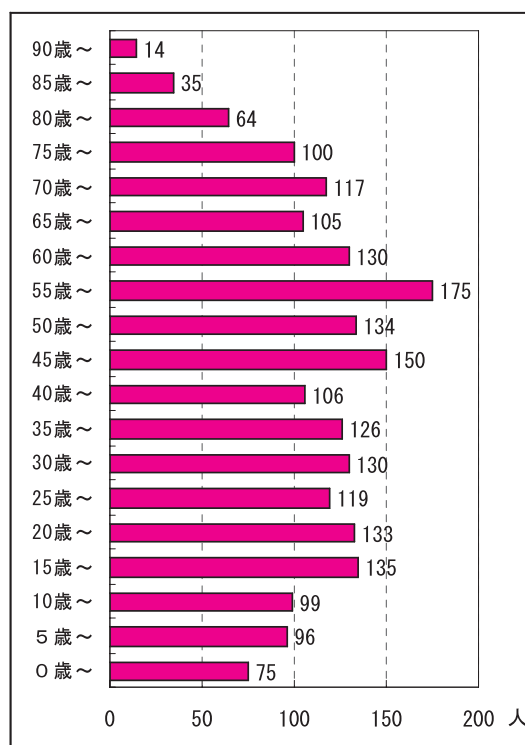
	海津市	東江地区
人 口	40,071人	2,043人
対人口比	100.0%	5.1%
年少人口	5,216人	270人
年少率	13.0%	13.2%
高齢者人口	8,487人	435人
高齢化率	21.2%	21.3%
後期高齢者人口	4,060人	213人
後期高齢化率	10.1%	10.4%

平成20年2月1日現在

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口



3 東江地区の社会資源

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
	東江保育園	東江小学校	歯科加藤医院

《重点課題・解決方法まとめ》

No.	課 題	分 野	最重点課題
1	各自治会に様々な役員を含めて話し合いができるように	地域交流	
2	ひとり暮らし高齢者と同じように夫婦とも高齢者の場合も困っていることが多い	高齢者	
3	高齢者の移動が大変	高齢者	◎
4	スーパーなどで身体障がい者マークのスペース確保	障がい者	
5	身体障がい者用の海津市バリアフリーマップの作成	障がい者	◎
6	公共施設・個人病院のバリアフリー化(病院等)	障がい者	
7	各地区の子どもたちの挨拶がちぐはぐにみえる	子ども	
8	学校が遠い	子ども	
9	どの子かわからないので叱れない	子ども	
10	医師会病院の充実	医療・保険	
11	災害弱者への配慮をするための情報の提供と関わるための意識の問題点	防犯・防災	
12	災害時に助け合う組織があること	防犯・防災	

東江地区策定委員会

解 決 方 法		
自助(自分たちでできること)	共助(地域でできること)	公助(行政や社協に依頼すること)
	自治会長の交流会をする	近隣ネットワークを勧める
声掛けをする	見守りを行う	情報を集める
		路線の見直し 市バスを身体障がい者も乗れるバスにする フリーストップバスの導入
駐車場スペースが狭いので、店舗の責任者に注意する 身体障がい者Pに健常者が停めようとするときは注意をする	家族や地域の会で周知、徹底を図る	行政で指導する
	東江地区のマップを作成する (障がい者共同)	市のマップを作成する
		行政で補助金を出す
子どもたちからは声を掛けにくいので、大人から声を掛ける		
		幹線道路を市営バスを走らせ 駅までピストン輸送、バス路線を短くする
悪いこと(危ないこと)をしたら、どこの子でも叱る		
利用をする		救命救急施設の設置
各自で災害弱者への見守り		
意識を高める	隣近所の連携を図る 防災組織の強化	

地区の課題(東江地区)

(1) 地域交流

- ・ 役員に任せきりで協力しない、有言不実行。
- ・ 各自治会に様々な役員を含めて話し合いができるように。
- ・ 老人会と子ども会の交流がない。

(2) 高齢者

- ・ ひとり暮らし高齢者と同じように夫婦とも高齢者の場合も困っていることが多い。
- ・ ひとり暮らし老人の毎日の買い物。
- ・ 高齢者のごみ出しが大変。
- ・ 高齢者の移動が大変。

(3) 障がい者福祉

- ・ スーパーなどで身体障がい者マークのスペース確保。
- ・ 公共施設のバリアフリー化(病院等)。
- ・ 身体障がい者用の海津市ガイドマップの作成。
- ・ ふれあいマラソンが周知されていない。
- ・ 障がい者の集まる場所がない。

(4) 子ども

- ・ ボランティアで子どもたちの登校時に面倒を見ている人の認め。
- ・ 子どもたちの遊び場。
- ・ 少子化が進む。確かに東江も現在は115名しかない。各地区ごとには何か子どもと一緒にやってやっているか？
- ・ 学生の通学路に車が多くて通りにくい。
- ・ 子どもが外で遊ばないのでふれあいがいい。
- ・ どの子かわからないので叱れない。

(5) 医療・保健

- ・ 医師会病院のロビーに銀行ATMの設置を。
- ・ 救急受付してくれる産婦人科・小児科がない。

(6) 防犯・防災

- ・ 災害時の避難場所等の詳しいことが決まっていなくて不安である。
- ・ 災害弱者への配慮をするための情報の提供と関わるための意識の問題点。
- ・ 災害時に助け合う組織があること。
- ・ 不審な人が最近多くなった。

(7) 交通

- ・ 事故の多発している農道交差点に具体的な対策を。
- ・ 交通が不便。バスの見直しが必要。
- ・ 市営バスとその他の公共交通機関とのリンクがとれていないので乗り換えるのに不便。
- ・ 堤防で事故が多い。

(8) 生活環境

- ・ 美化運動の時こそゴミの分別は厳しく指導してほしい。
- ・ 長良川や河川敷の新しいレジャーによる騒音。
- ・ 治安。
- ・ 不法投棄されたゴミの処理、監視体制の強化。

(9) 行政

- ・ 水防・消防などの組織を現代にあうように再考する必要がある。
- ・ 民生、福祉、保護、交通安全等の委員の活動情報提供。
- ・ 福祉に関わる行政面の手当が該当者の申請により発効するという制度は問題ではないか。

4

大江地区

1 計画の重点課題

コミュニティづくりの拡充

- ・自治会の運営についての組織の充実
- ・子どもと地域とのかかわりの強化
- ・高齢者と地域とのかかわりの強化

4
大江地区

2 大江地区の人口

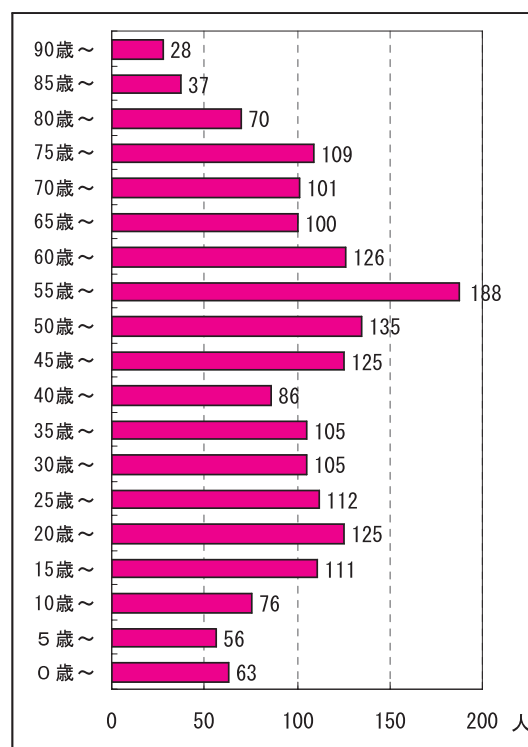
	海津市	大江地区
人 口	40,071人	1,858人
対人口比	100.0%	4.6%
年少人口	5,216人	195人
年少率	13.0%	10.5%
高齢者人口	8,487人	445人
高齢化率	21.2%	24.0%
後期高齢者人口	4,060人	244人
後期高齢化率	10.1%	13.1%

平成20年2月1日現在

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口



3 大江地区の社会資源

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津温泉	サンリバー松風苑(特養)	大江小学校	海津医師会病院
	サンリバーはつらつ(老健)		諏訪医院
	グループホーム海津「福寿苑」		諏訪歯科医院
	知的障害者グループホーム「いちい荘」		

重点課題：コミュニティづくりの拡充

課題	自治会の運営についての組織の充実	
解決方法	【自助：自分でできること】 ・住民一人ひとりが地域での活動に積極的に参加する。 ・自治会長の意識を改革する。 ・地区の行事に参加できない人、参加しない人を孤立させないように、会合で話し合ったことを報告したり、行事があるときには声かけをする。	【共助：地域でできること】 ・伝統的に行われている行事を盆、土用三郎など） ・現状を活かす（月1回各自治会管理や墓地清掃など）。 ・集落ごとに各種団体の長と自 ・各種団体の長が出席した会合呼びかけ・協力援助などに役立 ・自治会長が主となり、地域の
課題	子どもと地域とのかかわりの強化	
解決方法	【自助：自分でできること】 ・交通安全について、行き帰りのサポートや誘導をする。 ・登下校時間に外に出て、子どもたちと顔を合わせる時間をつくる。顔見知りになる。	【共助：地域でできること】 ・大江地域運動会を開催…午前 ・大江地域運動会の実行委員を ・ラジオ体操に参加する（誰も ・自治会が核となる交通安全サ ・大江地区内の各自治会が各種連携し、既存の活動を活かせるだけでなく、全住民に呼びかけ
課題	高齢者と地域とのかかわりの強化	
解決方法	【自助：自分でできること】 ・あいさつ（声掛け）をする。 ・子どもにも地域の人に会ったらあいさつをするように家庭で話す。 ・地域の高齢者の情報をもつ（家族の中で話題にする）。 ・ひとり暮らし高齢者や高齢世帯の両隣の家では気遣いをもち、気にかける。	【共助：地域でできること】 ・高齢者を把握し、活用する（自携をとり、名簿を作成する）。 ・自治会長、民生委員、福祉推 ・福祉推進委員の協力を得て、ポーター）などに協力・参加を ・大江地区で高齢者を組織化す ・地域の伝統行事を地域全体でく呼びかける。（初湯、初地蔵、 ・高齢者の方が集まる場所を作 ・住民の連絡網・組織図を作る。

- ・現在行われている活動を中心に骨太にしていく
- ・子どもと地域との関わりを家族以外の方と持つ

充実・継続。(初湯、初地蔵、地蔵で集会や各家庭持ち回りのお地蔵様の 治会長が情報交換できる場を持つ。の資料など住民に回覧し、周知・てる。 行事などの声掛けを住民にする。	【公助：行政や学校、社協に依頼すること】 ・自治会長の定期的な啓発、研修 ・市役所各課の最新情報（資料）など回覧で住民に周知するシステム作り（回覧用の資料を配布）
小学校の運動会、午後大江地域運動統合に伴い、小学校の児童数が70 決める。 が参加できるように呼びかける。 ポーターの組織を作る。 団体（育成会・子ども会など）とよう調整、働きかけをする（子ども参加を促す）。	【公助：行政や学校、社協に依頼すること】 ・交通安全サポーターと一目でわかるユニフォームなどの提供・配布（タスキ・旗） ・ラジオ体操の音楽を広報無線で流す（以前は広報で流れていた。現在子どもの数の少ない地域では、家の庭で兄弟だけが体操をしているので、地域全体を巻き込む意味を込めて）。 《学校》 ・大江地域運動会実行委員との連絡調整
治会長、民生委員、福祉推進委員が連 進委員が高齢者の情報を共有でき 会やサロン、自治会など）に、出くなるような会を計画する（古中島て、毎月集会所を利用している。サロン 高齢の方に福祉活動（交通安全サ呼びかける。 る（老人クラブの再編成）。 引き継げるよう、行事の参加を広地蔵盆、土用三郎など） る（いきいきサロンなど）。	【公助：行政や学校、社協に依頼すること】 ・老人クラブの活動支援 ・出前講座にて介護予防や介護保険についての情報提供、啓発 ・市役所の課長レベルの職員が市内各地区の担当につき、地域の寄り合いなど参加し、住民の意見を市に挙げるパイプ役になって欲しい。 《社協》 ・サロンの活動支援（福祉推進委員が中心となって活動をしている地区もある。小学生・幼稚園児との交流もある。）

地区の課題(大江地区)

(1) 住民のつながり

- ・ 婦人会などがなくなったので、地区内でも顔をあわせることがない。
- ・ 人と人とのふれあいが少ない。
- ・ いきいきサロンなどの拡大が今後必要（高齢者の場作り）。
- ・ 40代後半から50代男性のひとり暮らしが何人かいるが、近い将来が不安。
- ・ 子どもと接する機会が少なすぎる。
- ・ 子どもから大人へ話しかけやすいようにしたい。
- ・ 近所の人で顔を合わせてもあいさつしない。
- ・ 自治会（部落）の行事に呼びかけても、集まりが悪い。
- ・ 団地が隣接しているので、人間関係が難しい。
- ・ 地域の方と学校職員が対話できる場と機会がない。

(2) 高齢者・介護

- ・ 日中、老人のみ・高齢者世帯の家庭が多い。
- ・ 老人のみの家庭なので、入院した場合不安（身の回りの世話など）。
- ・ 高齢者で車に乗れる人がいないので病院・買い物等困難。
- ・ 認知症のある高齢者に対する接し方が悪い、わからない。

(3) 障がい者

- ・ 養護学校に通っている（18歳）が、来春卒業その後の生活が心配。

(4) 防災・防犯

- ・ 小学生の人数が少なく、下校時子ども達だけでは帰宅が心配。
- ・ 小学生下校時のスクールボランティアの協力が少ない。
- ・ 災害対策として、お互いに助け合える人の輪

ができていないのか不安。

- ・ 先日防災訓練があったが、もっと具体的に中身のある訓練が必要。
- ・ 自治会単位で安否確認の取れる全員の連絡網作りが必要。

(5) 生活環境の整備

- ・ 通学路でも車の速度が速い。
- ・ 田んぼ（路肩）などにゴミがたくさん捨ててある。
- ・ 周辺道路の草が茂っていて、車などが見えにくい。
- ・ 荒れた土地の管理ができていない（雑草・ねずみ・タニシ）。

(6) その他

- ・ 幼稚園の統合により廃園となる園舎の活用利用。
- ・ 川向こうでの行事が把握しづらく盛り上がらない（レガッタ・カヌー）。

(7) 今後も続けて欲しいこと

- ・ 初湯（1月） 神宮様よりお祓いを受ける。
- ・ 初地蔵（1月） 親子共出席、お供え後のお菓子が子どもに配られる。
- ・ 地蔵盆秋祭り（八幡神社） 部落お参り 提灯とし。
- ・ 毎月必ず集会所で自治会を開く（1軒に一人出席する）。
- ・ 年寄りの女性は2ヶ月に1回集まって食事をし、雑談をしている。
- ・ 土用三郎の夜は、海津苑で懇親会をする。

5

西江地区

1 計画の重点課題

- ① 三世代交流行事の実施
- ② 近所が手助けできる体制づくり
- ③ 災害時に助け合いのできるネットワークづくり

5
西江地区

2 西江地区の人口

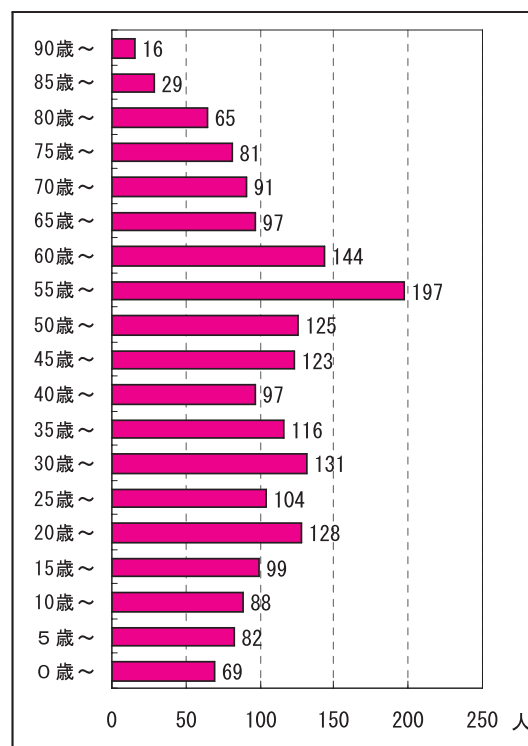
	海津市	西江地区
人 口	40,071人	1,882人
対人口比	100.0%	4.7%
年少人口	5,216人	239人
年少率	13.0%	12.7%
高齢者人口	8,487人	379人
高齢化率	21.2%	20.1%
後期高齢者人口	4,060人	191人
後期高齢化率	10.1%	10.1%

平成20年2月1日現在

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口



3 西江地区の社会資源

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
		西江小学校	

《課題・解決まとめ》

◎地域交流

重点課題		解決方法
		自助(自分たちでできること)
西江独自の行事があると良い	◎	子どもたちを中心に親と老人いろいろな行事に参加する みんなに声をかけ合う

◎高齢者

重点課題		解決方法
		自助(自分たちでできること)
高齢者に対して近所が手助けできると良い	◎	近所の方にすすんで声をかける

◎防犯・防災

重点課題		解決方法
		自助(自分たちでできること)
自治会で災害についてのネットワーク作り	◎	非常持ち出し 家族の確認→家族で話し合っておく 避難場所の確認→責任者に報告

西江地区策定委員会

解決方法	
共助(地域でできること)	公助(行政・社協に依頼すること)
3世代交流の行事に参加・声かけをする 地域の人々から学ぼう 自治会中心に行事を→町民運動会 自治会や学校・PTAなどが共同し、小学校 に集まることにより、地域交流を図る	参加賞の準備をする

5
西江地区

解決方法	
共助(地域でできること)	公助(行政・社協に依頼すること)
声をかけ合う・助け合いをする	

解決方法	
共助(地域でできること)	公助(行政・社協に依頼すること)
避難場所で人員点検ができるように 自主防災組織作り	災害状況の情報を流す(市内の状況) 病院搬送先の確保

地区の課題(西江地区)

(1) 地域交流

- ・西江独自の祭りか盆踊りのような行事があるとよい。
- ・近所の子どもの顔が分からない。
- ・要支援者が誰かが、近所でも分からない。
- ・行政に頼らない参加型の社会の育成に取り組む。
- ・掲示板が集会所、ゴミステーション等に付けられているが、最近活用されてないので、活用方法の一案を。
- ・先日の防災訓練にもっと地域住民が危機感を持って多くの人が参加できるよう工夫。
- ・子育て支援センターがやはり地域にあるといい。老人との交流などにいい。
- ・夏休みのラジオ体操に子どもやお年よりの交流、これに自治会も入り行くと良いと思う。
- ・伝統行事に子どもが参加したほうが良い。

(2) 高齢者

- ・高齢者が参加出来る（近い所で）サークルなどがあるといい。
- ・ひとり暮らし高齢者が多くなっている。
- ・家族はあっても昼間は一人でさみしい。
- ・食料品の買出しも高齢になると負担になる。

(3) 子ども

- ・子どもの数が少なく将来が不安。
- ・通学時の子どもの挨拶が少なくなっている。
- ・外で遊んでいる子どもが少ない。遊べない？
- ・少子化で子どもの声を聞く事が少なく淋しい。
- ・子どもを安心して預けられる所が少ない。

(4) 防災・防犯

- ・夜道が暗い。
- ・災害に向けて個々、自治会で話し合う。
- ・災害時どうすれば良いか分からない。

(5) 医療・保健

- ・介護を受けようとする時、どこへ言えばいいか分からない。
- ・休日診療の充実。

(6) 生活環境

- ・若者の集う（遊ぶ）ところがない。
- ・ボール遊びの出来る、車が来ない、安全な公園があるといい。
- ・若い世帯が増えない。
- ・道路・水田などにゴミが多い。
- ・街灯が表通りにはきちんと付いているが一歩裏に入ると暗い。
- ・通学路の左右の草が刈ってなくて歩きにくい。

(7) 交通

- ・信号のない交差点での自動車事故が多い。
- ・町バス・市バス・広域バス共に朝の時間が遅いので通学に使えない。
- ・雪降りにはバスを使って通学させたい。
- ・買い物に行きたいが、バスの連絡がうまく出来ない。

(8) 行政

- ・バスが利用できない方の為に市が補助をした個人タクシー等があったら良い。
- ・お帰りコールがあるなら、お昼コールもあるほうが良い(外で仕事をする人の為に)。